

TAIHO



大豊工業
レポート

2016

Taiho Kogyo Report

2015年4月～2016年3月の活動報告

社 是

私たちは時流に先んじ、合理主義に基づき

優れた製品をもって顧客の信頼に応える

— 信頼の大豊 —

Taiho Means Reliability

With this as our motto.

We at Taiho Group respond to the trust that our customers have lodged in us, by supplying quality products in anticipation of future needs and based on rational solutions.

創業以来、自動車の「摩擦・摩耗」をテーマに、その基礎研究から応用にいる幅広い技術を蓄積し、「トライボロジー(摩擦工学)のスペシャリスト」として、発展してきました。モノづくりにこだわり、「創意と工夫」「絶えざる改善」「チームワーク」を柱として、魅力ある製品をご提供し、お客様の信頼にお応えします。



発行目的

「大豊工業レポート2016」は、当社の企業価値を高めるために、ステークホルダーの皆様と対話を促すことを目的として発行しています。また当レポートの内容は3つの項目を考慮して企画・発行しています。

- 1 会社の将来イメージの共有
- 2 CSR方針に関する各種取り組み
- 3 製品による環境貢献量の開示

対象範囲・期間

大豊工業株式会社の取り組みを中心に掲載範囲を決めています。国内グループ5社、海外グループ7社においては、環境活動の取り組みを事例として記載しています。また、経営パフォーマンス、環境パフォーマンスにおいては、国内、海外を含めた範囲を掲載しています。期間は2015年4月から2016年3月としています。

目次

社是・発行目的	1
TOP INTERVIEW	3
特集	
中期的な事業戦略	7
環境活動に関する中期的な取り組み	9
CSR活動のハイライト	11
事業概要	13
取り組みの報告	
地球環境のために	15
【コラム】海外グループの主な取り組み	20
コーポレート・ガバナンス	21
お客様とともに	22
従業員とともに	23
取引先とともに	24
社会、地域とともに	25
株主・投資家とともに	26
環境データ	27
財務データ	29

昨年からの変更点

- ・トップメッセージをインタビュー形式へ
- ・特集記事を3つの分野ごとに掲載
- ・各事業所の取り組み事例など詳細をWEB版で掲載
- ・親しみやすさ、読み易さに配慮して、重要な情報・取り組みを掲載
- ・表紙及び内面のデザイン

お問い合わせ先

CSR推進室 TEL:0565-28-2225(代) FAX:0565-28-2227

●公表媒体

本報告書は、当社ウェブサイト上でのweb版と冊子配付により公表しています。

大豊工業 環境

検索

●参照ガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・GRI サステナビリティレポートガイドラインVer4.0
- ・IIRC IR統合報告フレームワーク

●免責事項

本報告書には将来見通しについての方策や計画が記載されています。これらは2016年5月時点での当社の予測に基づく内容であり、天災、経済動向、法規制動向、業界動向などのリスクや不確実性を含んでいます。そのため、計画などについては実績と異なる可能性がありますので、読者の皆様にはご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

大豊グループ(連結)

大豊工業(株)
全工場 / 事務 / 技術

国内グループ

大豊精機(株)、日本ガスケツト(株)、大豊岐阜(株)
(株)ティーイーティー、(株)タイホウライフサービス

海外グループ

TCA、PTN、TCE、TCK、TCY、TCT、WBM



代表取締役社長

杉原 功一

コア技術の 追求を通じて、 持続可能な社会の 発展に貢献する

2015年度の総括についてお聞かせください。

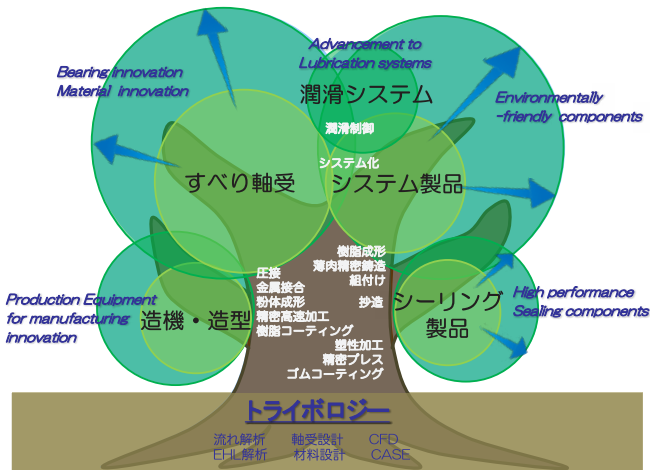
2015年度の売上高は1,072億88百万円となり、過去最高レベル(歴代2番目)になりました。利益面では、営業利益66億29百万円、経常利益62億97百万円、当期純利益37億72百万円となり、すべての項目で過去最高の数字を残すことができました。

2015年度は「VISION2015」の仕上げの年であり、活動の3軸「製品・製造領域のグローバルな拡大」「製品技術・生産技術の革新」「人財力の強化」を掲げ、グループの総力を挙げて、中期的に取り組んできた各種の施策が成果として具現化できたと考えています。特に、新製品の投入、国内外での拡販、さらに原価改善活動などにより、「RAコーティング軸受」「RR(良品廉価)軸受」「バキュームポンプ」など、当社の主力製品を大豊工業並びに国内外の子会社で新規に生産を始めることができました。

新たにスタートしたVISION 2020、2016～2018年度新中期経営計画について、まずは、事業の中核に関することをお聞かせください。

〔詳細〕特集 P7へ

「トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバル



トライボロジーを核とした事業領域の拡大

にお客様へお届けする」をスローガンに、本年4月よりVISION 2020をスタートさせました。VISION 2020の策定においては当社の強みであるトライボロジーをベースとして事業領域を広げていくことをイメージしています。また、単純な将来のロードマップとして描くだけでなく、それらを実現するための具体的なプランがタイムリーに企画できる「VISION」であることも意識しています。

2015年度は、日本の自動車産業の好調と円安に助けられたところもあり、必ずしも我々の努力だけで達成できたものではありません。また、更に今後は中国・アジアの新興国が持ち直し、円高に移行する中で、グローバルな競争がますます激化することが予想されます。そこで、「新中期経営計画」の策定においては事業分野別にチームを作り、過去のデータを分析するところから抜本的に見直すことに着手しています。

当社のコア事業である軸受については、材料開発、構造設計の両面からの刷新に取り組んでいます。新たに研究開発・生産技術開発のスピードアップを実現する実証ラインを構築し、グループ、仕入先様の技術を活かしながら付加価値の高いハイグレードな製品づくりに挑戦していきます。同時に、設備のコンパクト化と工数低減に注力した、より生産性の高い次世代加工ラインを確立し、コスト競争力を格段に高め、一層の拡販を図ります。

軸受以外の事業では、特にバキュームポンプの拡販、グローバル生産体制の確立を推進してまいります。

トヨタ自動車様よりTNGA※関連製品として、当社のバキュームポンプをガソリン、ディーゼルエンジンでご採用いただきました。国内外の生産拠点において品質、生産量ともに安定した供給体制を確立し、新たな顧客創出に繋げていきたいと考えております。

※TNGA (Toyota New Global Architecture)
トヨタ自動車の新たな車両開発手法。開発段階から部品やユニットを共有化して複数の車種で活用し、商品開発力強化と開発コスト削減の両立を図る

「新中期経営計画」のスローガンを中心に描く、社長の思いについてお聞かせください

「ゆるぎない『信頼と技術』でグローバルに躍進」というスローガンを掲げ、「技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる」「人材・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する」という2つのテーマを愚直に実現していきたいと思っています。

中でも、組織機能の再構築と人材育成については、今後グローバルに事業を拓げる上で、非常に重要な課題であると捉えております。

当社ではこれまでも、QCサークル活動やTQM活動を通じて、現場の課題を解決してきたという歴史があります。今一度、この良い風土を再評価し、先輩から後輩へ教え・教えられる職場づくりの強化が、効果的に事業を進める推進力のひとつと考えています。そこで、「燃える職場、社員総活躍プロジェクト」と題し、職場の一体感を醸成する取り組みを開始しました。



中期経営方針 2016-2018年

「教え・教えられる風土づくり」、「人財」の育成、さらには風通しの良い組織づくりなどで企業全体のポテンシャルを高めていきたいと考えております。具体的には、技能系の職場において「元気工場プロジェクト」と題した職場活動や、事務・技術員では問題解決力の向上など、教える側、教えられる側双方へのスキルアッププログラムを展開しております。

「大豊社員の心構え」を策定された思いなどお聞かせください。

これまで社員の行動全般に関する規律を示したものとしては「大豊社員の行動指針」がありました。今回新たに策定した「大豊社員の心構え」は、当社社員として仕事に取り組む上での具体的な心構えを示したものです。この策定にあたっては企業として成長を図る上で自分たちに必要なこと、また現時点で足りないことを社員自らの“声”として挙げてもらいました。

それぞれの項目における意味や意図を真剣に考え、自らの行動を踏まえて部下に指導し、組織としてのベクトルを合わせていきたいという思いから、まずは管理職から実践してもらいます。社員一人ひとりに「世界中で大豊グループの製品が使われている」「私たちが自動車業界を支えている」という“誇り”と“自覚”を常に持ってもらい、それぞれの役割と責任を当事者意識を持って全うしてほしいという願いを込めました。

全社員に浸透するには時間が掛かるとは思いますが、人財育成はもちろんのこと、活発で健全な組織づくりに繋がるとの思いから丁寧に取り組んでいきたいと考えております。

環境対応に関するお考え、取り組みについてお聞かせください。

〔詳細〕 特集 P9へ

2015年10月にトヨタ自動車様が、2050年までに新車CO₂ゼロにチャレンジする「トヨタ環境チャレンジ

2050」のリリースを行いました。自動車業界全体としてエンジン車の燃費向上に加え、HV車、PHV車、EV車、FCV車といったエコカーの普及が加速的に進むものと思われます。

大豊グループとしてもVISION 2020の重要施策の一つとして自動車の燃費向上、EV化、FCV化に対応する技術開発を掲げ、中長期的に取り組んでいく考えです。当グループのコア技術であるトライボロジーは環境に貢献できる技術です。TNGA関連の製品をはじめ、高性能エンジンに対応したメタル、新たな潤滑システム製品、FCV関連製品の開発など、取り組むべきテーマはたくさんあります。トライボロジーを追求、そして製品づくりを通じて環境に貢献してまいります。また、エネルギー効率に

大豊社員の心構え

私たち一人ひとりは大豊グループで働く一員として誇りと自覚をもって行動します

お客様第一	お客様と自分の仕事はどうつながっているか考え、喜ばれる製品・サービスを迅速に提供する
チャレンジ	高い目標を掲げ、失敗をおそれずに挑戦し、情熱・熱意をもって最後までやり切る
当事者意識	常に「自分は何をすべきか」を考え、率先して必ずやり切る
チームワーク	他の部署の支援・理解があって自分の仕事が成立している事を忘れず、人との関わりを大切にする
現地現物	現場に足を運び、事実を確認し「なぜなぜ」で真因を追求する
改善	日々状況が変化する中、どんな仕事にも創意と工夫で絶え間ない改善に努める
質実剛健	儉約に努め、強い心と身体をもって、何事にも愚直に取り組む
正直	何事も勇気をもって事実を正しく報告する
日々の成長	毎日の仕事を通じ、積極的に教え、教えられ、自ら学ぶ
感謝	自分の家族、そして我々を取り巻く地域社会に感謝する



優れた環境負荷の少ない新工法、新たな生産ラインの構築など、生産現場の環境貢献も同時に進めてまいります。

次代に応える環境施策として新たに「第6次大豊環境取り組みプラン」を策定しました。当プランの達成に向け、全社を挙げて取り組む所存です。グループ各社とグローバルマネジメント体制も構築し、環境というキーワードが大豊グループの一層の強みになるように努力をしていきたいと考えています。

大豊グループのCSRに関する考え方、取り組みについてお聞かせください。

2015年6月、大豊グループとしてのCSR方針を策定・リリースいたしました。当社において社是の次に位置する大変重要な方針となります。環境、地域、品質、ガバナンスなど、その取り組みは様々ですが、それだけ経営に密接に関わっているものと認識しております。

その基盤として、2015年6月組織改正にて、当社の環境企画機能を法務室に移管・統合し、新たに「CSR推進室」を設置いたしました。これにより、CSR方針に基づいた活動の強化を図るとともに、またグループ内外に対して経営における環境の位置付けを明確にしました。現在CSR推進室が中心となり、CSRの基盤となるコンプライアンス、リスクマネジメント、コーポレートガバナンス強化に向けた取り組みを重点的に実施しております。

ビジネスがグローバルに拡大していく中、海外での現地生産、現地調達、現地採用もさらに進んでいくことでしょう。そのため、国内での取り組みを海外の事業体にいかに早く浸透させていくかが今後の課題です。グローバルでTAIHOブランドを確立するためにも、文化も環境も商習慣も違う海外において国内同様の取り組みができるように注力してまいります。

2000年11月に当グループのコア技術であるトライボロジーの研究開発支援と啓蒙を目的とした「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」を設立し、世界



のトライボロジー研究者を支援しています。本年度は新たな取り組みとしてTTRFと大豊工業の共催で、第1回国際シンポジウムを開催しました。自動車関連企業の開発代表者と学界の主だった先生方に参加いただき、産業界のニーズをお伝えし、研究活動の一助としてもらうことを狙いとしたものです。

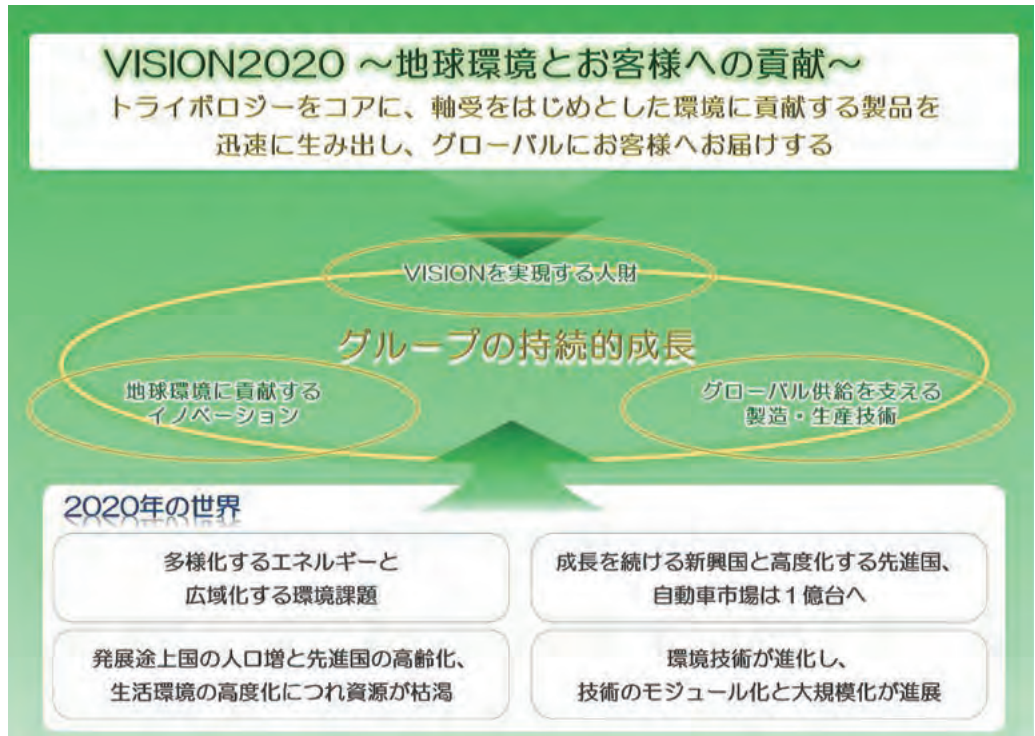
また、2016年4月に施行された女性活躍推進法に関する、女性にとって働きやすい職場環境づくりの支援をはじめ、ボランティア活動、地域貢献など幅広い視点での社会貢献も継続してまいります。

企業を取り巻く環境は常に変化しており、企業側の取り組みも進化を続けなければなりません。当グループにおけるCSR方針は、社是である『信頼の大豊』を実現するための基軸であると考えております。コンプライアンスや環境保護など、さまざまな社会的責任を果たしていくのはもちろんのこと、トライボロジー技術で社会的課題の解決を進めてまいります。同時に経営の健全性、透明性を高め、我々を取り巻く全てのステークホルダーの皆様に対して誠実であり続けたいと考えております。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。また、本レポートに対して忌憚のないご意見やご感想を頂戴できれば幸いと存じます。

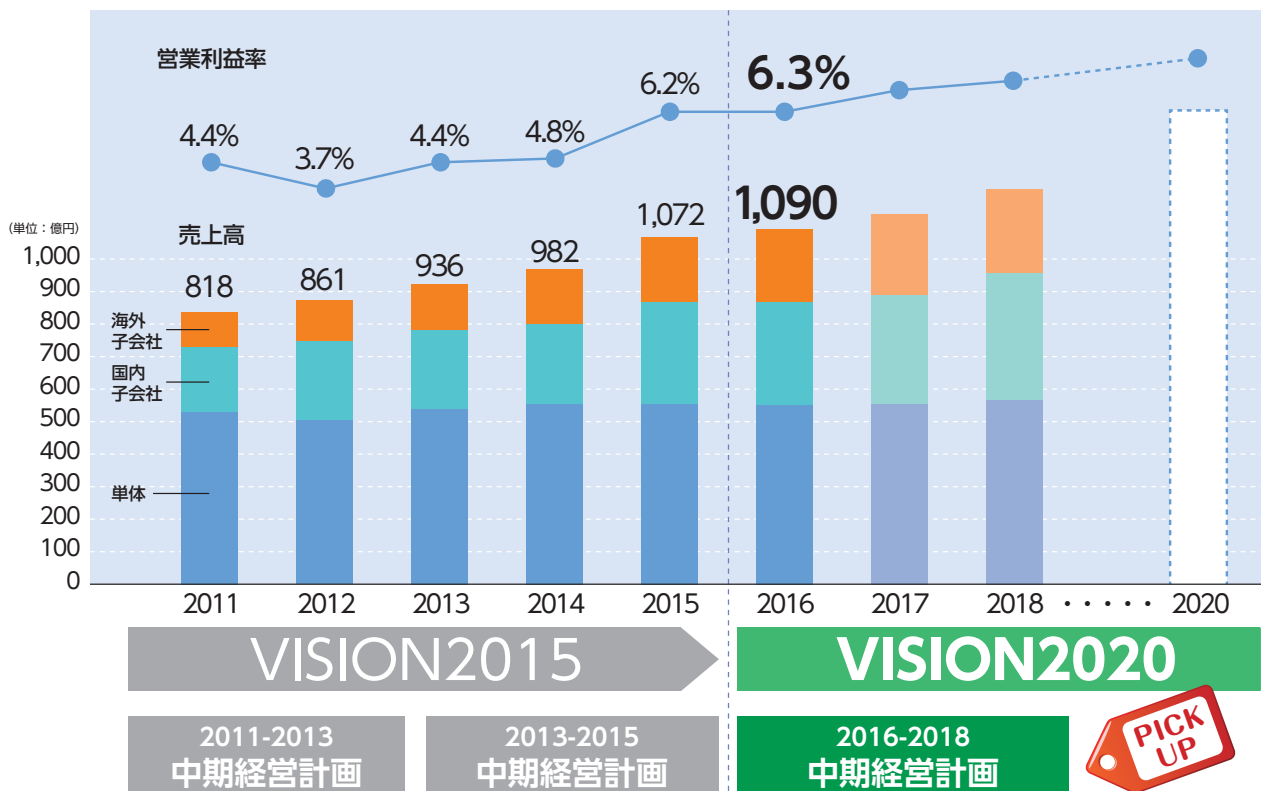
VISION2020スタート、新中期経営計画の推進へ。

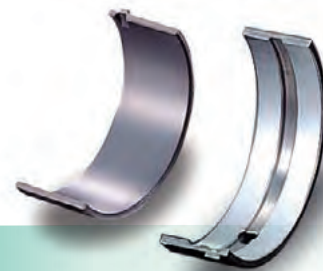
●VISION2020 基本方針



●新中期経営計画

持続的成長を図りながら収益体質の強化に取り組めます。





●中期経営計画の取り組み

軸受

エンジンベアリング

ハイグレードゾーン

材料・形状の両面から刷新に取り組み、より高性能、特殊スペックへ対応します。

ボリュームゾーン

同一品質で低コスト化に向け、次世代加工ラインを確立しグローバル展開を図ります。



環境に
貢献する
製品

低摩擦な軸受により燃費向上を実現し、地球温暖化防止へ貢献。

ブシュ、ワッシャ

生産体制を確立させ、海外現地生産を促進します。

カーエアコン用
コンプレッサ部品

現有技術を生かしたシュー、斜板の拡大と、先を見据えた開発を進めます。

軸受以外

システム製品

バキュームポンプ

コンパクト化された設備をグローバル展開し、コスト競争力強化を図り拡販を目指します。

将来に向けた製品

環境技術の深化に伴い、将来に向けた技術力を取り込み、新分野を開拓する製品開発を進めます。



ダイカスト製品

回転鋳抜工法や設備コンパクト化などによる新工法の確立と原価低減を進めます。

ガスケット

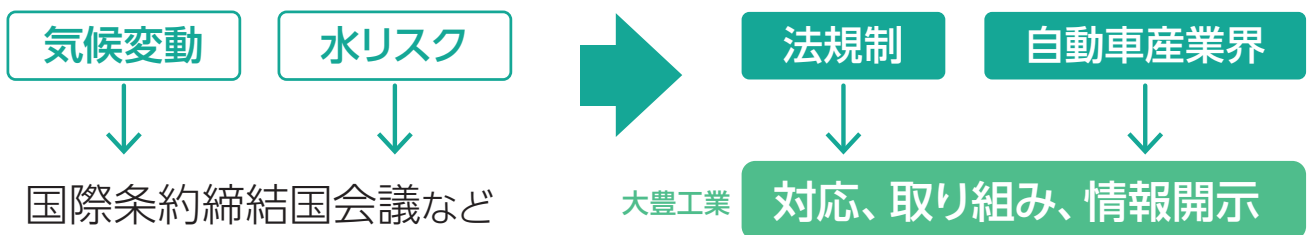
ディーゼル用ガスケットを中心に中国、アセアンへの拡販を進めます。

設備・金型

大豊グループ、協力会社と連携し、新たな領域に挑戦します。

環境に関する社会動向の変化を踏まえ、 持続可能性を考慮した企業活動を推進します。

●環境問題の深刻化と当社の関わり



深刻化する地球環境問題に対する社会動向の情報を収集しています。
法規制や自動車産業界の施策に対し、当社の理念、対応すべき方針を「大豊 環境方針書」としてコミットメントしています。

大豊 環境方針書

<環境基本理念>
製品と生産で 社会と環境に貢献

<環境方針>

1. 法規制の遵守
法規制及びその他の要求事項を遵守し、違反・苦情を未然防止
2. 自主的な取り組み
各国・各地域の環境を保護する為、自主的な目標設定と展開並びにフォローによる継続的な改善
 - ①地球温暖化防止
 - ②資源の有効利用と排出物の低減
 - ③環境負荷物質の低減
 - ④生物多様性の保全
3. 社会との連携・協力
社会から信頼される企業市民をめざす
 - ①お客様・仕入先殿との連携と協力
 - ②地域社会への貢献
 - ③積極的な情報開示
4. 環境技術の追求
環境に貢献する製品の提供とものづくり
 - ①トライボロジー技術を軸にした環境対応製品の開発
 - ②燃費向上、排ガス浄化に貢献するシステム製品の開発
 - ③資源の投入量を最小化する、新工法の開発

2016年4月1日
大豊工業株式会社
代表取締役社長
杉原 功一

→ **環境基本理念**

当社の製品を通じた貢献と、生産活動に伴う貢献の2つの柱で活動を進めます。

→ **① 法規制の遵守**

環境法令の遵守を最優先し、未然防止活動を進めます。

→ **② 自主的な取り組み**

目標を設定し改善を実行します。

→ **③ 社会との連携・協力**

ステークホルダーの皆様と、連携した活動に取り組みます。

→ **④ 環境技術の追究**

当社のコア技術を用いて、環境への貢献に取り組みます。



●環境に関する中期的な取り組み

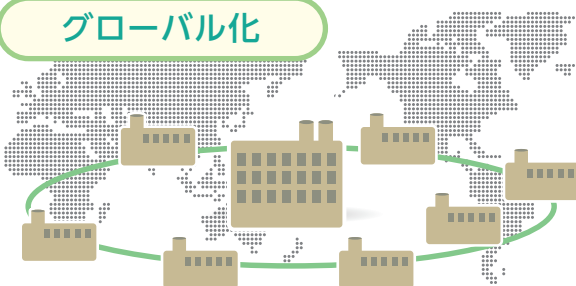
大豊 環境方針書のコミットメントを実現するため、2016-2020年の5カ年を対象とした、「第6次大豊環境取り組みプラン」を策定しました。

取り組み項目			5カ年の取り組み (環境方針との対比)	
低炭素社会の構築に向けた取り組み	新車CO ₂ ゼロ	自動車の燃費向上に寄与する製品開発の推進	製品	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮製品の拡販による、環境貢献の拡大 EV、FCVなどの環境対応技術に直接貢献する製品開発 ④ 環境技術の追究
	工場CO ₂ ゼロ	生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	生産	新設する生産ライン導入時にエネルギー効率を評価するしくみの導入 など ② 自主的な取り組み
循環型社会の構築に向けた取り組み	循環型社会の構築	生産における排出物の低減と資源の有効利用 梱包資材の使用量低減と資源の有効利用		排水や廃液類を低減する処理技術の導入 など ② 自主的な取り組み
	新規 水インパクト最小化	各国、各地域に合わせた水課題の対応		海外を含めた各拠点の水に関するリスクを把握し、各国、各地域に合わせた取り組みの推進 ② 自主的な取り組み
環境保全と自然共生社会の構築	新規 自然共生社会づくり (生物多様性の保全)	地域とつなぐ、自然保全活動 世界とつなぐ、環境助成活動の強化 未来へつなぐ、教育貢献の強化 バイオ緑化、森林保全活動		会社の周辺地域を調査し、動植物、水などの自然資源保護の推進 ② 自主的な取り組み
	環境経営	マネジメント	連結環境マネジメント(違反苦情未然防止) サプライヤーと連携した環境活動の推進 環境教育活動の充実と推進 環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実	活動範囲のグローバル化 ① 法規制の遵守
—			活動範囲のグローバル化 ③ 社会との連携・協力	

今後の環境活動のキーワード



グローバル化



環境マネジメントの統一的な体制構築

生物多様性の保全



水、動植物などの自然資源を保護

グローバルな企業活動を通じて、 企業としての使命を果たすことで 「持続可能な社会とその発展に貢献する」

●CSR方針

私たちは、グローバルな企業活動を通じて企業としての「使命」を果たし、持続可能な社会とその発展に貢献します。

その実現のために、株主、お客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーと健全な関係を築き、お客様に満足していただける製品を提供することにより、豊かな社会の実現を目指します。

また、国内外・国際的な法令ならびにそれらの精神を遵守し、社会的良識をもって誠実、公正、透明な事業活動を行います。

私たちは、これらの実現が自らの役割であることを認識した上で、企業が負う責任を果たし、社会に信頼される企業であり続けます。



当社のCSRは、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメントの3つを基盤とし、ステークホルダーの皆様に対し、誠実な事業活動を通じて対話に努めます。

●TTRF財団(研究助成)

世界のアカデミアに貢献

大豊工業トライボロジー研究財団(Taiho Kogyo Tribology Research Foundation)は、米国イリノイ州に財団本部があり、全世界的な活動を展開しています。当社がトライボロジー研修及び開発に関する助成や、若手トライボロジストの受賞者への助成などを目的として、2000年11月に設立した財団です。

TT RF TTRF-TAIHO 第1回 国際シンポジウム International Symposium on Automotive Tribology 2016

2016年4月にTTRFとの共催で第1回国際シンポジウムを開催しました。産業界のニーズに応えるため、研究・学術分野との相乗効果を目的として開催。国内外約140名のトライボロジー関係者が出席され、活発な意見交換、討議が行われました。より一層のグローバルなトライボロジー研究を促進し、今後も継続して社会の発展に貢献し続けます。



第1回 国際シンポジウム(名古屋国際会議場)



●地域貢献

地域の方々との調和

継続的な活動の一つとして、地域交流を深めています。特に当社主催の「大豊祭」は地域住民の方にもご参加いただき、楽しんでいただけるよう運営しています。また、地域の方々に迷惑をかけないため、環境苦情を未然に防ぐ緊急訓練や点検会などの管理強化も日々行っています。



大豊祭

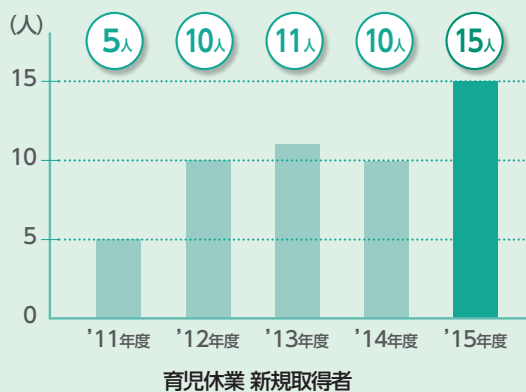


環境苦情を未然に防ぐための訓練

●雇用機会

従業員への理解・配慮

2016年4月の女性活躍推進法施行に伴い、当社では従来より『次世代育成』の観点から育児支援のための制度の定着などに取り組み、育児休業制度利用者は増加傾向にあります。また、2015年4月にはT-kids(社内託児所)を開園しました。今後は女性活躍の観点も交え、更なる施策の充実を図って参ります。



T-Kids(社内託児所)

T-Kidsの利用者の声

現在T-Kidsに2歳の子どもを預けています。栄養面を考えた食事やおやつを提供、お昼寝用のお布団を用意していただけることなど、働くお母さんにとってよい環境が整っています。また、食育や音楽、運動など子どもが楽しみながら学ぶことができ、子どもの成長を喜ばしく感じています。お母さんにとっても子どもにとっても最適な環境であると感じています。今後更に託児所の利用者が増え、女性の活躍推進につながればと思います。



総務人事部
鵜生 亜友香

事業概要

会社概要

商号 大豊工業株式会社
 本社 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 創業 1944年12月
 資本金 64億8千万円
 従業員数 連結:4,100名
 単独:1,620名



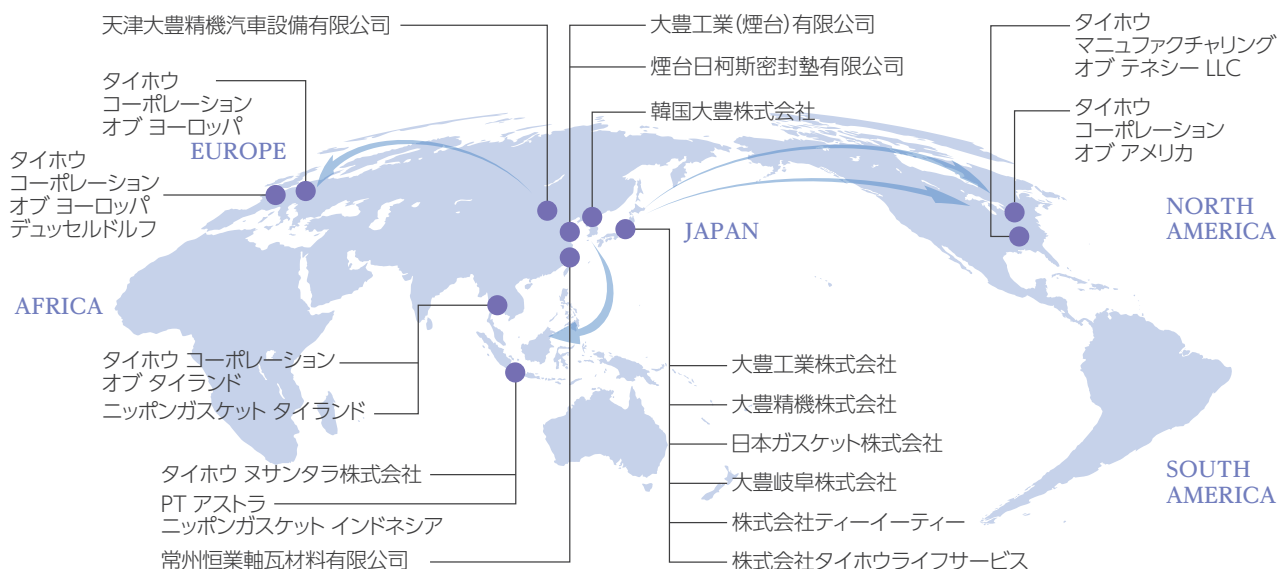
生産拠点

本社工場 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 細谷工場 愛知県豊田市細谷町2-47
 篠原工場 愛知県豊田市篠原町敷田37-1
 幸海工場 愛知県豊田市幸海町市田上切2-1
 九州工場 鹿児島県出水市緑町50-19

主な施設、営業所

技術開発センター 愛知県豊田市細谷町2-47
 東京営業所 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル8F
 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区宮原4-3-12

大豊グループ

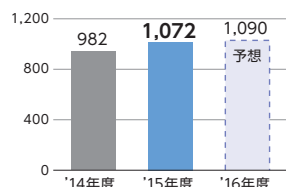


業績ハイライト(連結)

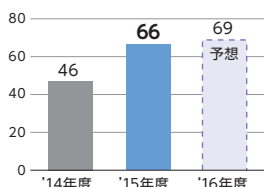
売上高 1,072億88百万円 **営業利益** 66億29百万円 **経常利益** 62億97百万円

親会社株主に帰属する当期純利益 37億72百万円

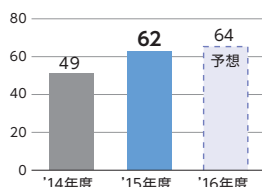
●売上高



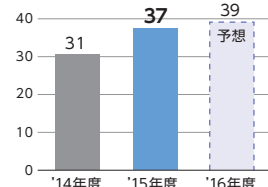
●営業利益



●経常利益



●親会社株主に帰属する当期純利益





製品紹介

軸受

エンジンベアリング
ブッシュ
カーエアコン用
コンプレッサ部品
ワシヤ

システム製品

バキュームポンプ
EGRバルブ
高圧チェックバルブ

ダイカスト製品

カムハウジング
インレットエルボ
デフキャリア

ガスケット

ガスケット

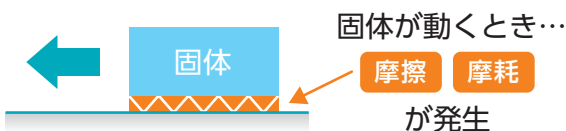
その他

バランスウェイト
樹脂ギア

トライボロジーとは

現象を解明し、摩擦・摩耗を低減する学問分野

= トライボロジー



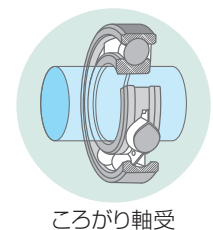
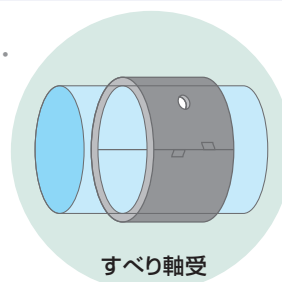
当社のトライボロジー技術

自動車部品を作る当社では、金属製品と油類における流体摩擦とその潤滑に関する製品を開発しています。



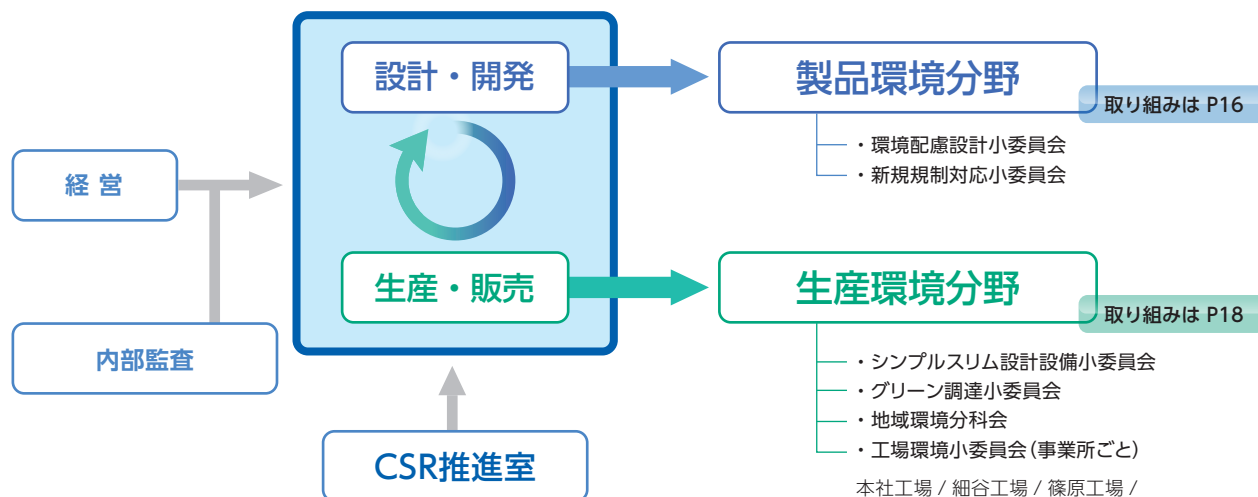
軸受とは

軸受には「すべり軸受」と「ころがり軸受」の2種類があります。
すべり軸受は、軸と軸受との間に油などの潤滑材を使用し、軸の滑らかな回転を支えています。
当社はこの「すべり軸受」を開発・生産しています。
潤滑理論により油膜圧力発生メカニズムなどを計算解析し設計することで、ころがり軸受では耐えられないエンジンの高負荷に耐えることができ、静粛性・耐振動性・寿命にも優れています。



地球環境のために

地球規模の環境課題に取り組むため、自動車の燃費向上に寄与する製品を提供すると同時に、より少ない環境負荷での生産活動を目指した方針を掲げています。



2015年6月にCSR推進室を設置し、環境活動の推進、監査を強化しました。

啓発活動

環境教育

環境保全活動を継続的に行うためにも、環境教育を実施しています。2015年度は200名以上が受講しました。

区分	教育名	対象者	受講者数 (2015年度)
環境教育	新任者教育	環境組織構成員	約25名
	監査員リフレッシュ教育	内部監査員	約35名
	設計者教育	技術部門	約30名
	連休前環境会議	工事担当者	延べ130名

環境月間

毎年6月の環境月間に合わせ、当社でも環境に関する行事を実施しています。2015年度は緑化のシンボルとして緑のアーチを敷地内に製作しました。



本社工場の準備(5月)



細谷工場の緑のアーチ(8月)

外部との連携、取り組みPR

愛知県豊田市にある4事業所を中心として、豊田市と「環境の保全を推進する協定」を締結し、協議会へ参画しています。この協議会は豊田市民と企業のコミュニケーションを充実するため、とよた産業フェスタなどに出展し、企業の取り組みをPRしています。また、トヨタ自動車(株)主導の「オールトヨタ生産環境連絡会」にも参画しています。



とよた産業フェスタ2015のようす (豊田市役所 提供)



製品環境分野

一般的な自動車における燃料エネルギーのうち、純粋な自動車としての運動エネルギーは30%程度しか利用されません。残り70%程度のエネルギーは、熱等として損失しています。

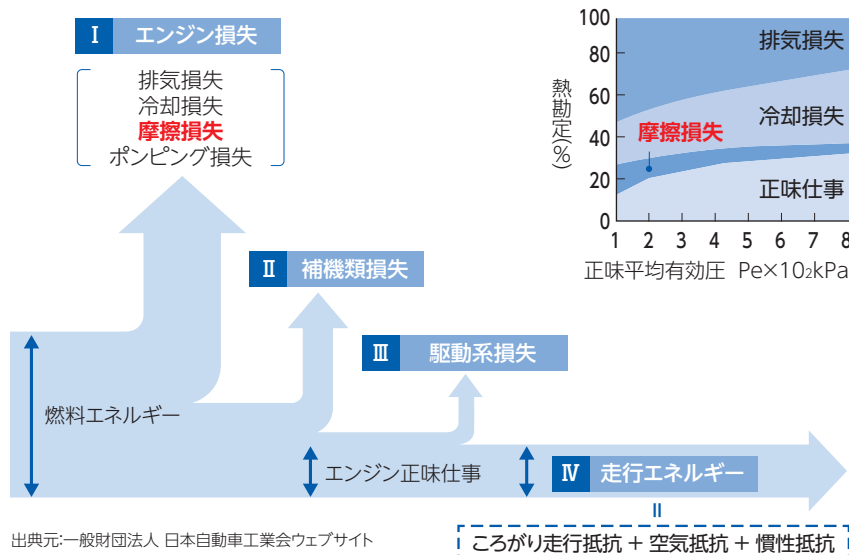
当社では、このエネルギー損失のうち、10%程度を占める摩擦損失の領域において、低摩擦製品の開発を進め、自動車の燃料エネルギー利用率向上=燃費向上に貢献しています。

製品環境の活動として、

「社会と環境に貢献できる製品の提供」

「環境負荷物質の低減」

を方針とし、一歩先を行く開発を意識して活動しています。

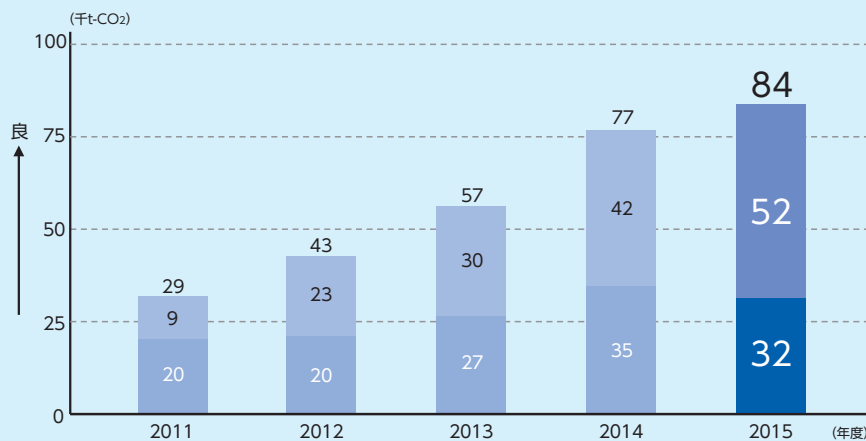


当社製品の搭載された自動車が一般社会に普及することで環境保全に貢献することを、当社では「製品による環境への貢献」と定義しています。

燃費改善によるCO₂削減量を貢献量として、公表しています。

$$\text{貢献量} = \text{燃費向上率 (理論値)} \times \text{当社製品の搭載車CO}_2\text{排出量 (自動車メーカー公表値)} \times \text{年間走行距離 (当社推計値)} \times \text{年間生産台数 (製品販売数からの算出値)}$$

●貢献量グラフ



●算出式の解説

当社の従来製品と摩擦性能を比較して算出した燃費向上率と、その製品が搭載された自動車のCO₂排出量、年間走行距離、年間生産台数から貢献量を算出しています。

環境配慮製品の事例 細溝付軸受

広く普及しつつあるハイブリッドシステム搭載車は、無駄な燃料消費を抑えるため、積極的にエンジンを停止させます。その状況下では、エンジンオイルが暖まりにくく、軸受部の摩擦が高い状態が続き、優れた燃費性能を誇るハイブリッド車においても、更なる改善余地が残されていました。そこで、軸受に細かい溝を付けることにより、低温環境下でもオイルの温度を早期に上げるハイブリッド車に適した製品を開発しました。この製品は新型プリウスに採用され、トヨタ自動車(株)よりプロジェクト表彰されました。また、一般社団法人 日本トライボロジー学会からも表彰されました。



トヨタ自動車(株)より表彰



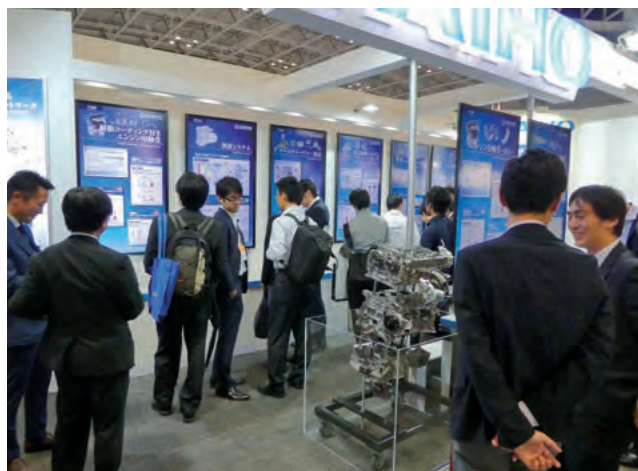
日本トライボロジー学会から表彰



開発チーム

●製品・技術のPR

当社の製品や技術のPRを、様々なイベントで行っています。2015年度は「人とするまのテクノロジー展 2015」や「第44回東京モーターショー」などへ出展しました。



人とするまのテクノロジー展2015

●製品に関する規制への対応

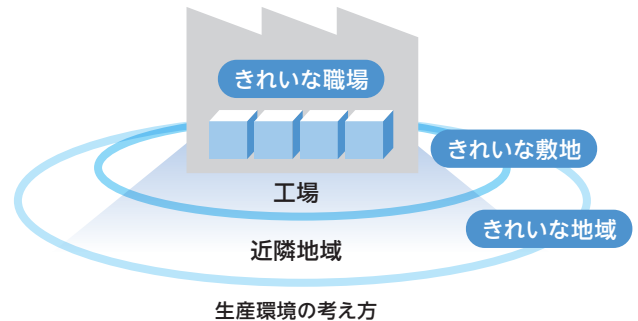
当社では、製品に適用される規制動向を確認しています。特に海外の化学物資規制は、製品設計時に考慮すべき要件となるため、情報管理を継続しています。

対象の規制	取り組んでいる状況	2015年度結果
REACH規則	期日が2017年までの要認物質の含有調査	調査完了、含有無し
ELV指令	2015年末に鉛の適用除外が解除される製品への含有調査	調査完了、含有無し
RoHS指令	現規制物質含有調査	該当無し
欧州以外の規制	中国、インド、その他途上国の規制動向調査	適宜報告

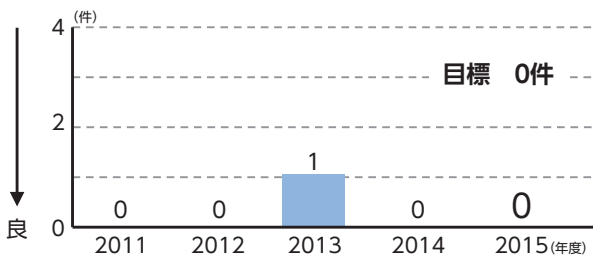


生産環境分野

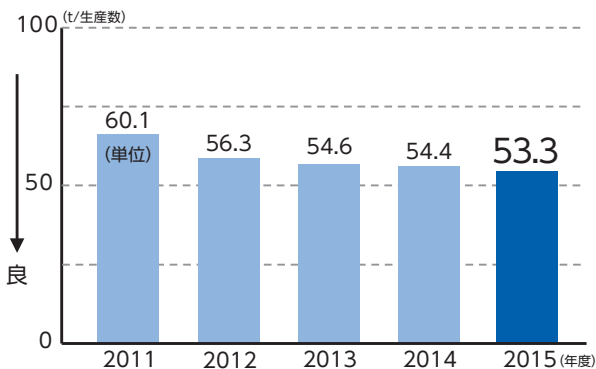
生産環境活動では、地域に迷惑をかけないことを目的とした、環境違反・苦情の未然防止活動に始まり、地球環境に配慮したCO₂排出量の削減などに取り組んでいます。また、工場内の4S(整理、整頓、清潔、清掃)を徹底し、きれいな職場を維持することで、安全、品質に優れた安定稼働の確保と、絶対に迷惑をかけない地球・地域に優しい生産活動を日々心がけています。



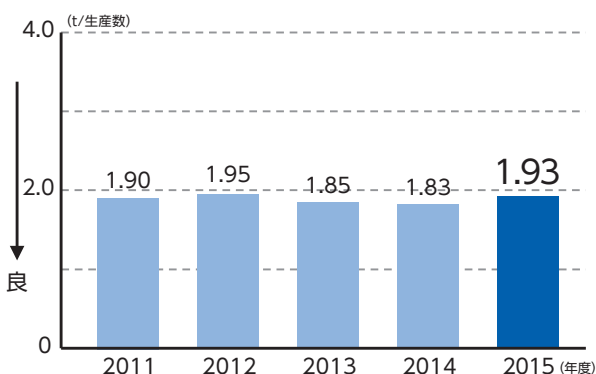
●異常・苦情件数



●CO₂原単位



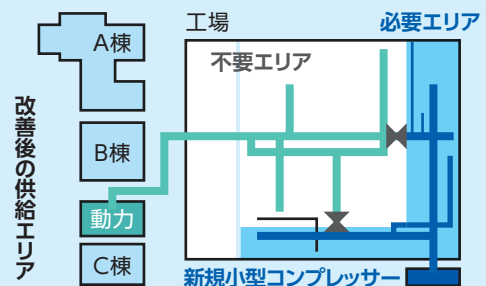
●廃棄物 原単位(単体)



地球温暖化防止の取り組み事例

【休日稼働時のエネルギー低減】

休日でも一部のラインを稼働する場合、不要なエリアにもエアを供給していました。そこで、供給すべきエリアの細分化や小型コンプレッサーを導入する事で、必要なエリアのみ供給するようにしました。

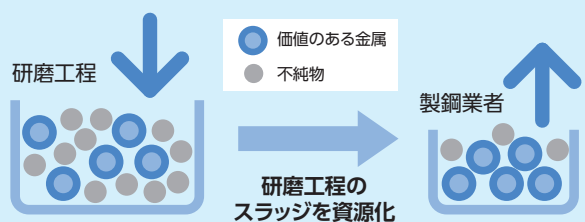


CO₂排出量：15t/年の低減

省資源の取り組み事例

【研磨スラッジの資源化】

比較的純度の高い金属成分を多く含むスラッジを産業廃棄物として処分していることに着目し、資源化することを検討しました。その結果、製鋼業者様のご協力もあり、資源化することに成功しました。



廃棄物排出量：84t/年の低減

●各工場の取り組み

本社工場 地域と人に優しい工場へ

本社・幸海工場長 森安 昌弘

2015年度も「0-1-95」*を掲げ、粘り強く活動を継続してきました。
2016年度は廃棄物及びCO₂の低減を重要取組項目として、
作業環境の更なる向上をもって、より良い地域環境の保全を図っていきます。

*納入不良「0」、加工不良「1」%以下、可動率「95」%以上



細谷工場 生産性の向上で環境に貢献

細谷・九州工場長 小笠原 邦彦

2015年度は設備のメンテナンス、
復元を進め、環境異常の未然
防止を進めてきました。
2016年度は生産性向上による
環境パフォーマンス改善をおこ
なっております。



篠原工場 知恵と工夫で儲かる環境活動

篠原工場長 岸 吉信

2015年度は廃棄物低減と工程内
不良低減を中心に改善を進めて
きました。
2016年度は生産性向上、(可動
率向上、サイクルタイム短縮)に
よる儲かる環境活動を展開します。



幸海工場 グリーン&クリーンな 工場・モノづくり

本社・幸海工場長 森安 昌弘

2015年度は、「非稼働時のCO₂
低減」に着目し、非稼働日の待機
電力カット、生産再開時のロス
低減にこだわって活動を行いま
した。
2016年度は、これまでの低減活動の横展開と共に、エアー
使用量の徹底した低減活動を加えて、グリーン&クリーンな
工場を目指します。



九州工場 地域の方々に誠実な工場を 継続

細谷・九州工場長 小笠原 邦彦

2015年度はエネルギー使用量
を見えるようにし、改善の目の
付けどころを把握しました。
今後は根本的な省エネ改善を
進め、環境パフォーマンスの向上
につなげます。

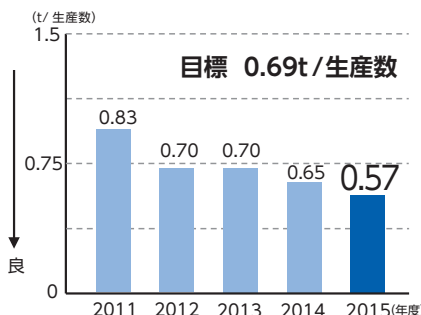


各工場、国内グループの詳細な取り組み事例はWEB版で見ることができます。 URL:<http://www.taihonet.co.jp>

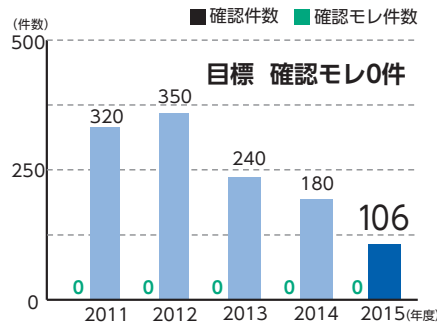
●グリーン調達活動

「CO₂削減」と「環境負荷物質管理」の活動を仕入先と共有し、大豊グループとして取り組みを強化していきます。

1. 豊成会主要10社CO₂削減目標と実績



2. 環境負荷物質管理非含有確認状況



活動事例

グリーン調達活動の一環として、各仕入先の環境担当者や環境違反・苦情の未然防止をテーマにグループワークを行いました。



グループワークの様子

海外グループの主な取り組み

タイハウコーポレーション オブ アメリカ



Doug Bouillon

これまで、一般ゴミとして廃却していた梱包巻紙のリサイクル化を実践しました。

廃棄物

230kg
(月の低減)



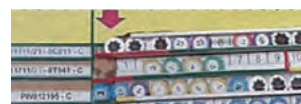
コイルの梱包用巻紙

タイハウ ヌサンタラ株式会社



SALAMUN

納入したコイルの整頓がされず、サイズや品番の在庫がわかりにくい状態でした。そこでコイル管理板を作りラックを活用したことで在庫の見える化など多くの効果を得ることができました。



コイル管理板



コイルのラック活用

過剰在庫の低減
スペースの効率化 など

タイハウコーポレーション オブ ヨーロッパ



Norbert Pinter

従来品との切替えの際、切削液の濃度を見直し(8%→7%)、切削液の使用量を低減することができました。また、環境負荷物質を含まない種類に変更しています。



切削液

**全面切替え
済み**
(EUの規制先取り)

大豊工業(煙台)有限公司



李 云珍

梱包用の脱磁装置が動き続けていることに疑問を持ちました。そこでセンサーを取り付け製品を脱磁する時のみ装置が動くようにしました。

電気使用量

3,120kWh
(月の低減)

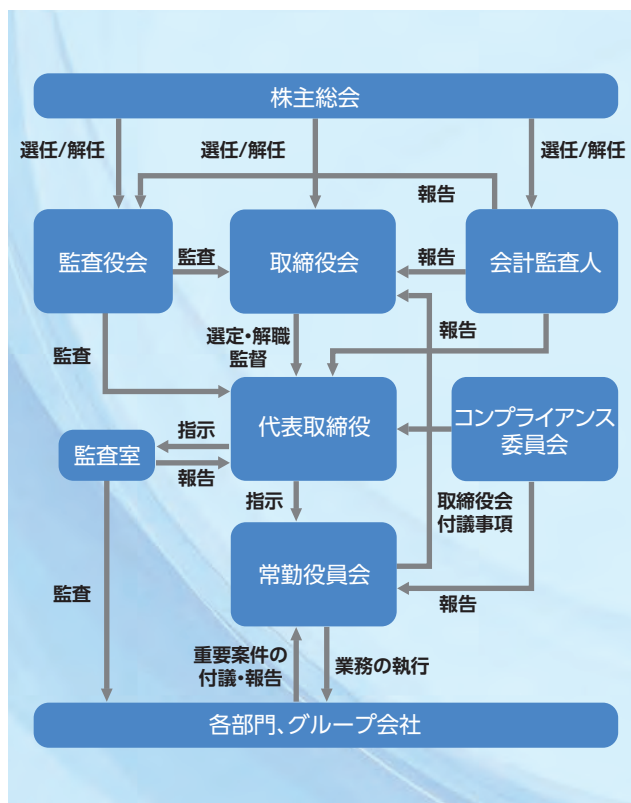


センサー

梱包ラインの脱磁装置

コーポレート・ガバナンス

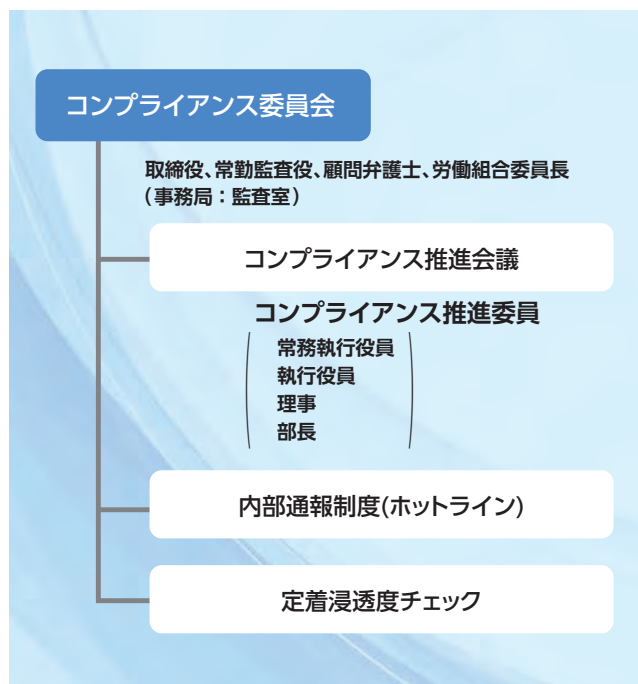
当社はコーポレート・ガバナンスを「株主に代わって、経営の効率性や適法性等をチェックする仕組み」であるととらえ、監査役会、取締役会を設置しています。当社の監査役会は社外監査役3名を含む4名体制であり、取締役の業務執行の監視による経営判断に対する牽制的役割を担うなど、経営管理体制のチェックができる仕組みになっています。取締役会では法令で定められた事項のほか、経営に関する重要事項の意思決定と取締役の監督機関と位置付けており、重要事項については、常勤役員会にて十分な審議を行った上で取締役会に上程することとしています。また、当社は社外取締役を2名選任しており、経営意思決定の透明性を高めることで、コーポレート・ガバナンスの強化を図っています。



コンプライアンス委員会

大豊工業の内部統制機能を補完する仕組みの一つとして、企業倫理と法令等の遵守を徹底するため、当社ではコンプライアンス体制を構築しています。

コンプライアンス体制



相談窓口の設置

当社では、従業員に対して倫理・法令上の相談窓口「ホットライン」を設置しています。また、困り事や悩み事を受け付ける「困り事相談窓口」も設置しています。

事業継続管理の取り組み

大規模災害等の発生に備え被害の最小化と早期復旧のために生産をはじめ各機能が事業継続マネジメント (BCM) に向けて訓練を重ね取り組んでいます。



BCMに関する訓練

お客様とともに

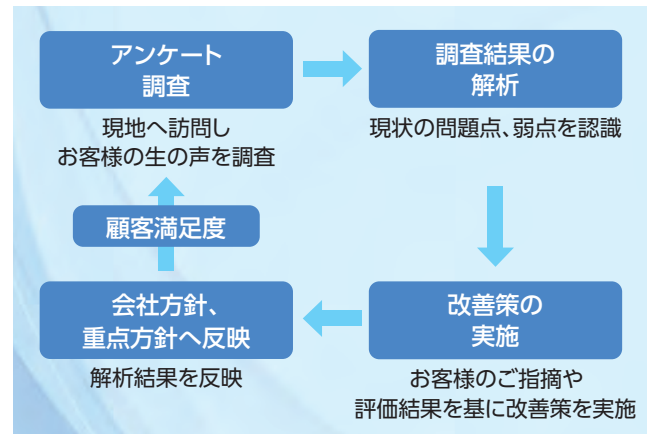
お客様へ新たな価値を提案

CS 顧客満足
Customer Satisfaction

●顧客満足度調査

当社の製品を納入させていただいているお客様の声や潜在的ニーズを、製品・技術・サービスに反映し、満足していただける品質を継続的に提供していくために「顧客満足度調査」を実施しています。

顧客満足度調査のフロー



顧客満足 (CS向上) に関する担当者の声

当社は、CS向上に向けて下記の取り組みを実施しています。

- ①当社の品質向上に向けた取り組みを定期的に顧客へPRしています。
- ②当社内の品質改善事例展示会を実施し、会社全体の品質への取り組み意識の向上と、内容のレベルアップを図っています。

『決めたことを守り、守らせる』をスローガンに、全社品質専念活動を推進してきました。この活動では、作業観察を通じた標準作業の徹底と改善を実施し、結果として不具合が低減できています。



品質保証部
藤瀬 渉

更なる品質向上活動

QC 品質管理
Quality Control

当社の経営方針であるVISION2020達成を目指し、グローバルな展開を推進していくために、「顧客第一」や「法令遵守」を織り込んだ方針としています。大豊グループへ展開を図り、グループ一丸となってさらなる品質向上に取り組んでいます。

品質基本理念

「顧客第一」に徹し、顧客に満足される「品質」を継続的に提供する。

品質基本方針

- 1 関連する法令と規制を遵守し、これらを取引した、付加価値のある新製品を顧客に提供する。
- 2 顧客ニーズを満たす商品を生み出し、顧客に満足いただける品質を確保・提供する。
- 3 品質マネジメントシステム(QMS)の継続的な改善を図り、効果的な品質保証活動を推進する。

QCに関する取り組み事例

『決めたことを守り、守らせる』をスローガンにした全社統一活動として「全社品質専念時間」に取り組んでいます。全従業員の品質意識向上のために、役員含めた管理監督者も全員参加しています。



全社キックオフ



作業観察

ISO/TS16949 : 2009の認証取得



当社は世界の自動車メーカーが世界の統一規格として認証取得を推奨している品質マネジメントシステム規格「ISO/TS16949: 2009」を取得しています。

従業員とともに

安全衛生は、始めから終わりまで全てに優先

労働安全衛生

あたり前の事を
確実にやり遂げる!!

当社の『安全衛生方針』は、経営トップの思いを定めた安全・衛生の姿です。この方針をもとに、労働災害ゼロの達成を目標としています。

労働安全活動の取り組み事例

標準作業の整備、トップ安全確認会、構内歩行帯の整備を活動の柱とし、本社工場は2010年より休業災害ゼロを継続しています。その成果もあり、無災害記録第2種を受賞しました。



本社工場の受賞(右)森安工場長

安全衛生方針

- 1 労働安全衛生法および、関係する諸法令と社内規則・基準を遵守し、災害の発生防止に努める
- 2 全災害未然防止を基本に、本質安全と従業員の意識向上を図り体質を強化する
- 3 衛生管理の充実と、全従業員の健康維持増進を図る

衛生活動の取り組み事例

大豊グループ全体で社員の健康管理活動が評価され、トヨタ関連部品健康保険組合主催の懇談会にて肥満対策事例を紹介・講演しました。



講演の様子(安全衛生推進部 副島すま子)

一人ひとりの個性と多様性を尊重

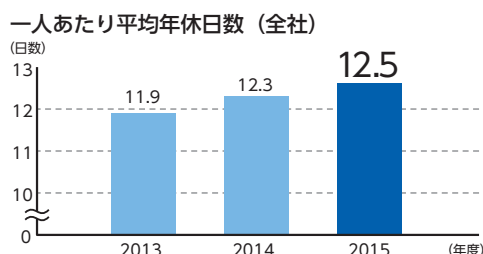
人財育成・雇用

当社では、グループ会社を含めた従業員が生き生きと働ける環境づくりを目指し、人事制度の充実に向け、適材適所での人財の配置・交流ができる仕組みづくりの構築と、会社の継続的発展を支える人財力向上に向け、教え・教えられる風土の醸成に向けた活動を推進しています。

●ワークライフバランスの実現

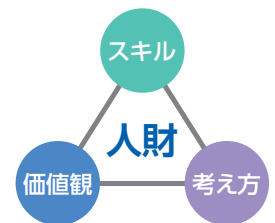
ワークライフバランスの取り組みとして労使で年休取得目標を設定しています。過去3年間で年休取得日数は増加しています。

また、労使協議の場で総労働時間削減の議論を行っています。

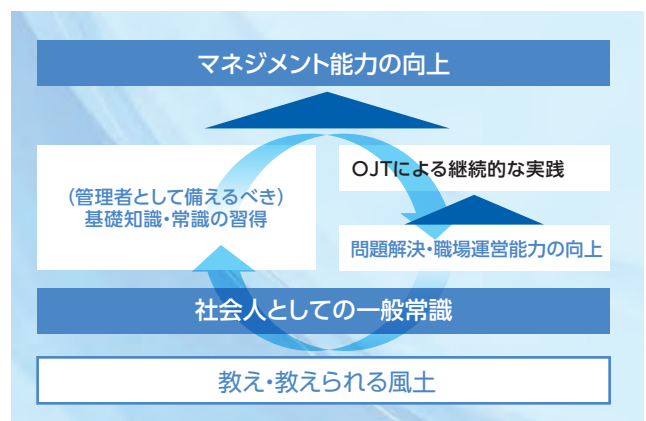


●人財を育てるための機会作り

人財とはスキル(知識、技術)を備えた上に価値観や考え方も備えた人であり、当社では、その人財が育つための機会(教育・環境)として、多くの教育・研修を実施しています。



当社における人財の考え方



取引先とともに

持続的な事業活動を支える

適正取引

調達基本方針

- 1 開かれた公正・公平な取引の原則
- 2 調達相手先と一体となった競争力強化の原則
- 3 調達相手先との共存共栄の原則
- 4 原価低減活動等における課題・目的の共有と成果シェアの原則
- 5 相互信頼に基づく双方向コミュニケーションの確保の原則

当社は、「調達基本方針」に基づき、適正取引の推進を図っています。調達方針説明会でeSQCD等の期待値を提示し、取引先へ年間活動テーマとして展開していただいています。

● サプライチェーンマネジメント

東日本大震災において調達困難な原材料、部品の代替先検討等の実体験をもとに反省し、サプライチェーンの把握に取り組み、大規模災害を想定した具体的な「生産の構え」を検討開始しています。これは、当社の事業継続マネジメント(BCM)の一部と連動しています。

紛争鉱物に関する対応

大豊グループで製品、購入部品、原材料には紛争鉱物を使用しないと宣言すると共に、取引先に対し、製錬所の情報入手と、不使用の証明書提出を要請しています。

● 豊成会の取り組み

豊成会は、当社の協力会社(全22社)で構成される組織として、1989年に結成され、大豊グループ協会として相互研鑽を通じ、企業の発展を図っています。

技術開発・改善事例展示会

グループ力の最大化(拡販、収益向上)と相互理解によるパートナーシップ強化を目的に2012年から毎年「技術開発・改善事例展示会」を開催しています。2015年度は16件の事例が展示されました。



豊成会の担当者の声

トライの積み重ねにより量産条件を確立し、ダウンサイジングを成功させました。これからも技術力に磨きをかけ、頼られる仕入先になるよう、改善を続けていきます。



奥田工業(株)
小野寺 秀徳

グローバル調達の取り組み

安定調達

適正価格で安定調達を維持するために、グローバル調達を加速させます。そのため、調達機能としての体制や個々のスキルの充実を図っています。

現地調達化に向けて

北米におけるバキュームポンプの現地生産に向け、現在北米現地の取引先において生産準備を進めています。北米の拠点では初めてのシステム製品の立上げになるため、取引先と連携しスムーズな生産稼働を目指します。

● グリーン調達ガイドライン

取引先の皆様と環境活動を連携していくために、当社ではグリーン調達ガイドラインを発行しています。

PDF版を当社ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.taihoneet.co.jp/company/green.html>



社会、地域とともに

本業を通じた社会貢献活動

「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」によるトライボロジー研究者への助成活動を行っています。また、豊田少年少女発明クラブや、キッズエンジニアなど、青少年育成の場にも従業員が講師となって参画しています。

豊田少年少女発明クラブ

1981年に当時の当社社長である大塚氏が初代理事長として設立しました。現在は前社長の上田氏が理事長を務め、当社からも指導員を派遣しています。豊田市に住む小中学生を対象とし、未来の技術者育成に貢献しています。



クラブ代表が参加した世界大会の様子

地域との交流

地域の皆様にも参加していただける催し「夏まつり」「大豊祭」を開催し、楽しむことができるイベントとして、感謝の声をいただいています。地域の皆様と懇談会を定期的に開催し、ご要望など意見交換をし、関わりを持ちながら活動を進めています。



夏まつり



地域との懇談会



大豊祭



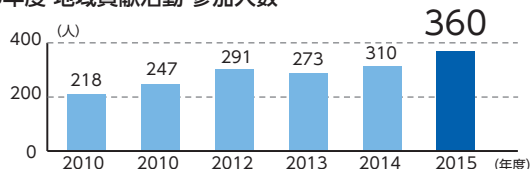
工場見学(篠原工場)

地域への貢献活動

「一人でも多くの方に理解と関心を」と推進し、職制会会員や、執行役員もボランティア活動に参加し、従業員への参加意識の向上やコミュニケーションの場づくりとなりました。

主な社会貢献活動	
5月	・障がい者支援センター ひかりの丘活動
7月	・第13回 障がい者交流ダーツ大会(当社主催) ・ふるさと出水クリーン作戦
9月	・第11回アーム祭り ・緑ヶ丘自治区と周辺清掃活動
10月	・第5回 光の家まつり
11月	・第27回 むもんまつり
12月	・松竹梅、クリスマス寄せ植え鉢製作
2月	・桜の植樹

2015年度 地域貢献活動 参加人数



ボランティア

当社主催の取り組み

当社主催の障がい者交流ダーツ大会は13回目を迎えることができました。豊田市や社会福祉協議会の後援をいただき、豊田市内の多くの障がい者の方々にダーツ競技を楽しんでいただいております。社員も障がい者の方々と大会を通じて触れ合うことで、ボランティア意識の向上に繋がっております。今後も、より一層、競技参加者に楽しみと喜びの機会を提供するために尽力していきます。



第13回 障がい者交流ダーツ大会

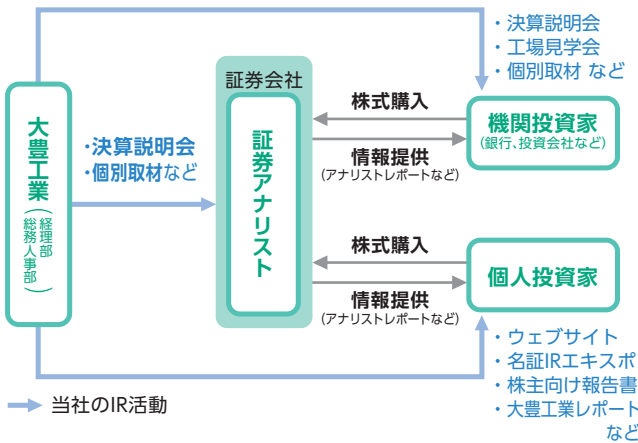




株主・投資家とともに

企業情報の発信

当社は、的確かつ迅速・公平な企業情報の発信に努めるとともに、さまざまなIR活動を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に行っています。



● 情報提供の取り組み

通期と第2四半期の年2回(5月、11月)、東京で証券アナリスト、機関投資家を対象にした「決算説明会」を開催しており、社長自ら決算分析から将来に向けた成長戦略、株主還元の考え方等の説明を行い、経営者としての思いを伝えています。投資家の皆様に安心して株式を保有していただけるよう、企業情報を積極的に提供しています。



決算説明会

● IR活動実績(2015年度)

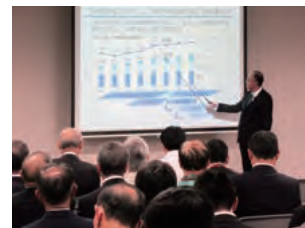
対象者	活動実績
株主	株主向け報告書発行(6月、11月) 株主懇談会(6月)
証券アナリスト 機関投資家	決算説明会(5月、11月) 個別取材対応
個人投資家	名証IRエキスポ2015出展(7月)
その他	メッセナゴヤ2015出展(11月) とよたビジネスフェア出展(3月) ウェブサイトのIR情報開示 http://www.taihonet.co.jp/investorrelations



IRエキスポ



株主向け報告書



株主懇談会



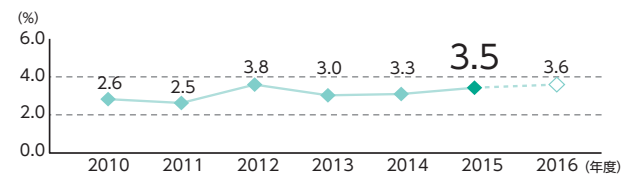
工場見学会

安定的な還元

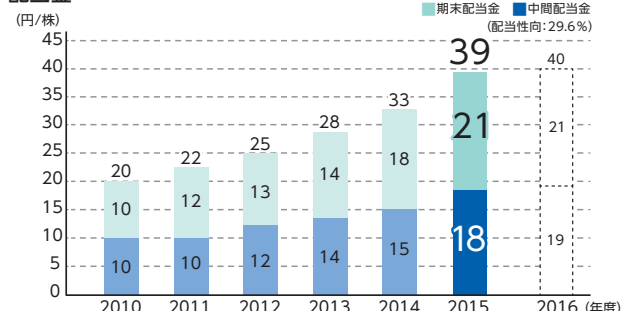
株主様への利益還元と事業の成長および経営基盤強化のための内部留保とを総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えています。内部留保した資金は、将来にわたる株主利益を確保するため、将来の事業成長のための投資および財務体質強化に活用していきます。2015年度配当金は前年度よりも増配し、39円とさせていただきます。なお、2016年度配当金は、40円を予定しています。

株主還元

当期純利益率



配当金



法改正の対応

2015年4月に施行されたフロン排出抑制法に従い、社内の約1,500台のフロンガス使用設備に対し、点検等の対応を実施しています。

フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (略称 フロン排出抑制法)

保管事業所	登録台数
本社工場	340
細谷工場	210
篠原工場	250
幸海工場	80
九州工場	120

2015年4月の施行を受け、フロンガス使用設備の管理を開始しました。今後も維持管理を継続します。

環境法令の遵守状況

愛知県豊田市にある4工場並びに鹿児島県出水市にある1工場において、2015年度は環境関係の規制基準の超過はありませんでした。

ばいじん、NOx

対象事業所	ばいじん (規制値:0.2g/m ³ N)	NOx (規制値:70~200ppm)
本社工場	<0.0003~0.0011g/m ³ N	<1~44ppm
細谷工場	<0.0003~0.0040g/m ³ N	27~37ppm
幸海工場	<0.0003~0.0004g/m ³ N	<9~40ppm

各種装置ごとに測定した結果をまとめて表示しています
<は定量下限値未達を示しています

ダイオキシン類

対象事業所	対象設備	測定結果 (規制値:5ng-TEQ/m ³ N)
本社工場	アルミ集中溶解炉	0.00000039ng-TEQ/m ³ N

放流水質(有害物質項目)

対象事業所	項目	測定結果 (カッコ内は規制値)
本社工場	鉛およびその化合物	<0.02~0.03ppm (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<0.05ppm (4)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	3.6~9.7ppm (30)
細谷工場	鉛およびその化合物	0.01~0.03ppm (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<1.0~2.0ppm (4)
	フッ素およびその化合物	<0.1~4.0ppm (8)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	<0.1~4.0ppm (30)
幸海工場	フッ素およびその化合物	<0.1ppm (8)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	<0.1~12.0ppm (15)

トリクロロエチレン

対象事業所 ※1	地下水測定データ	回収量 ※2
本社工場	<0.000~1.68ppm	65.33kg
細谷工場	<0.000~0.200ppm	0.54kg

※1 上記以外の事業所では検出されていません
※2 回収量は官公庁へ届出している社内の算出値です

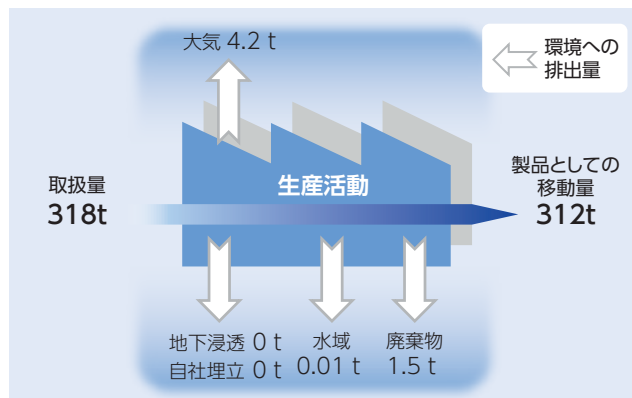
PCB含有機器 保管量

保管事業所	保管台数	処分台数
本社工場	0台 ※1	—
細谷工場	蛍光灯安定器等 150台	15台 ※2

PCB廃棄物処理基本計画の変更を受け、含有機器の再調査と処分を実施しました。

※1 全て細谷工場へ集約
※2 2016年4月に実施

PRTR法に基づく 排出・移動量

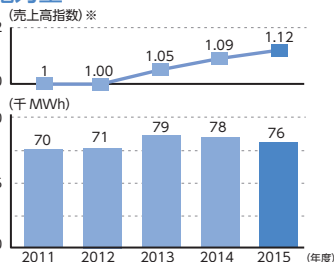




企業活動に伴うマテリアルフロー

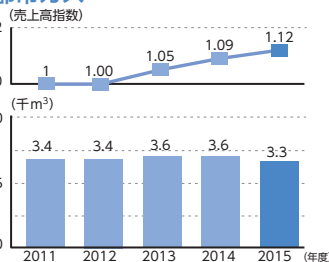
投入資源

●電力量



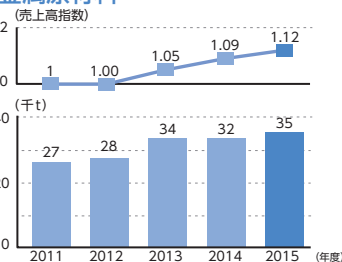
高効率機器の導入により電力量は減少しています。

●都市ガス



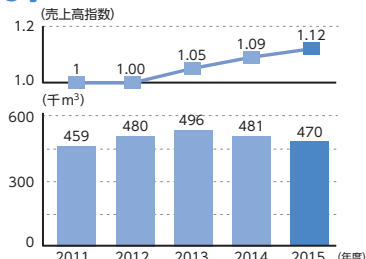
主に空調で使用しているため、一定の使用量となります。

●金属原材料



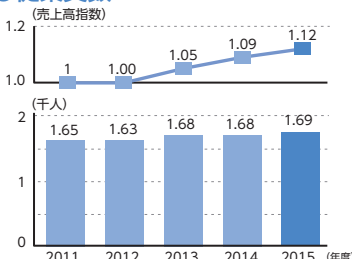
軸受製品の生産増に伴い、原材料購入量も増加しています。

●水



新めっきラインの設置が完了し、旧ラインの停止により減少しています。

●従業員数



計画的な雇用を維持しています。

※売上高指数
2011年の売上を1とした場合の、売上の伸び率

生産活動

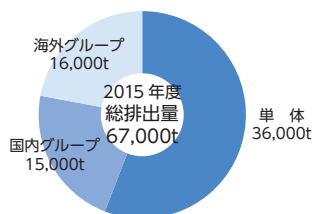


●社内循環資源量(ダイカスト製品)



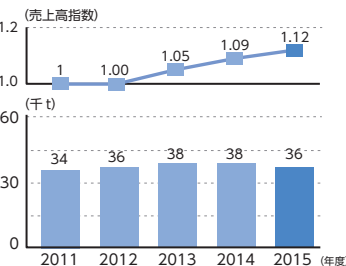
排出量

●大豊グループ全体の温室効果ガス(CO₂)総排出量内訳



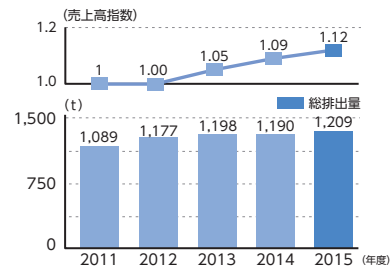
2013年度より、大豊グループ全体の温室効果ガス削減の目標を統一し、一体となって取り組んでいます。

●温室効果ガス(CO₂)総排出量



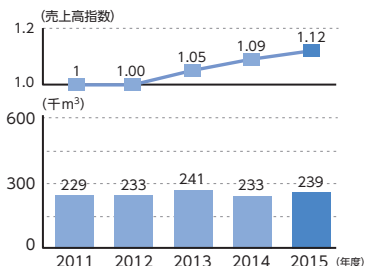
高効率機器の導入や省エネ活動に伴い、排出量が減少しています。

●廃棄物総排出量



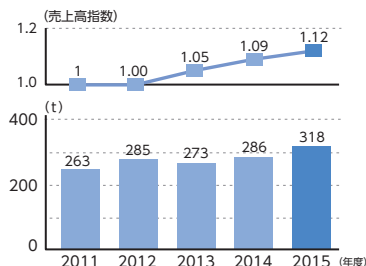
売上増加に伴い、排出物排出量は増加傾向にあります。

●放流量



めっきラインの更新に伴い、放流量が増加しています。

●PRTR法対象物質取扱量



製品の評価試験に使用するガンソリンが増えたため、増加しています。

連結貸借対照表

単位:百万円

科 目	当連結会計年度末 2016年3月31日現在	前連結会計年度末 2015年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	49,189	46,408
現金及び預金	12,719	12,885
受取手形及び売掛金	18,134	17,855
たな卸資産	10,415	9,435
繰延税金資産	1,520	1,406
その他	6,631	5,051
貸倒引当金	△233	△226
固定資産	55,717	57,536
有形固定資産	49,421	49,718
建物及び構築物	12,468	12,549
機械装置及び運搬具	18,260	15,718
土地	13,364	13,434
建設仮勘定	3,764	6,470
その他	1,562	1,545
無形固定資産	1,166	1,505
投資その他の資産	5,129	6,311
合 計	104,906	103,944

【流動資産】当連結会計年度末における流動資産の残高は49,189百万円であり、前連結会計年度末に比べ2,780百万円増加しております。電子記録債権の1,078百万円の増加、たな卸資産の981百万円の増加、受取手形及び売掛金の278百万円の増加が主な要因であります。

【固定資産】当連結会計年度末における固定資産の残高は55,717百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,818百万円減少しております。建設仮勘定の2,706百万円の減少、投資有価証券の975百万円の減少、のれんの407百万円の減少、機械装置及び運搬具の2,542百万円の増加が主な要因であります。

単位:百万円

科 目	当連結会計年度末 2016年3月31日現在	前連結会計年度末 2015年3月31日現在
【負債の部】		
流動負債	34,035	28,478
支払手形及び買掛金	10,603	13,838
短期借入金	—	361
未払費用	5,146	4,892
その他	18,282	9,386
固定負債	11,697	17,460
長期借入金	8,589	14,301
退職給付に係る負債	1,768	1,854
その他	1,338	1,304
負債合計	45,733	45,938
【純資産の部】		
株主資本	56,436	53,517
資本金	6,480	6,479
資本剰余金	9,949	9,948
利益剰余金	40,199	37,280
自己株式	△192	△191
その他の包括利益累計額	1,891	3,642
その他有価証券評価差額金	973	1,521
為替換算調整勘定	1,503	2,597
退職給付に係る調整累計額	△586	△475
新株予約権	112	69
少数株主持分	732	776
純資産合計	59,173	58,006
合 計	104,906	103,944

【流動負債】当連結会計年度末における流動負債の残高は34,035百万円であり、前連結会計年度末に比べ5,556百万円増加しております。1年内返済予定の長期借入金の5,187百万円の増加が主な要因であります。

【固定負債】当連結会計年度末における固定負債の残高は11,697百万円であり、前連結会計年度末に比べ5,762百万円減少しております。長期借入金の5,711百万円の減少が主な要因であります。

【純資産】当連結会計年度末における純資産の残高は59,173百万円であり、前連結会計年度末に比べ1,167百万円増加しております。利益剰余金の2,918百万円の増加、為替換算調整勘定の1,093百万円の減少、その他有価証券評価差額金の547百万円の減少が主な要因であります。



連結損益計算書

単位:百万円

科 目	当期連結累計期間	前期連結累計期間
	2015年4月1日から2016年3月31日まで	2014年4月1日から2015年3月31日まで
売上高	107,288	98,221
売上原価	87,005	80,654
販売費及び一般管理費	13,652	12,892
営業利益	6,629	4,675
営業外収益	290	703
営業外費用	623	405
経常利益	6,297	4,973
特別利益	134	41
特別損失	881	138
税金等調整前当期純利益	5,550	4,876
法人税、住民税及び事業税	1,831	1,354
法人税等調整額	△90	304
少数株主損益調整前当期純利益	3,809	3,217
少数株主利益	37	23
当期純利益	3,772	3,194

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	当期連結累計期間	前期連結累計期間
	2015年4月1日から2016年3月31日まで	2014年4月1日から2015年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,474	8,858
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,493	△ 8,940
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,057	△ 5,301
現金及び現金同等物に係る換算差額	△224	243
現金及び現金同等物の増減額	△301	△ 5,140
現金及び現金同等物の期首残高	12,711	17,852
現金及び現金同等物の期末残高	12,571	12,711

「大豊工業レポート 2016」発刊にあたって

ご一読いただきましてありがとうございます。

本報告書は、売上高等の“財務情報”と環境・社会への貢献、中期的な展望等の“非財務情報”を一冊にまとめた「統合報告書」を念頭に置いて制作したものです。

ステークホルダーの皆様と大豊工業グループを繋ぐコミュニケーションツールとして、ご活用いただけましたら、望外の喜びです。より解りやすく、より親しみやすい冊子とすべく、具体的な活動内容や実績数値等のファクトをふんだんに掲載したつもりですが、まだまだ改善の余地も多いと感じております。今後も当レポートの一層の充実を図っていく所存ですので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。



常務執行役員
川治 豊明

 中期経営方針 2016-2018年度

ゆるぎない 「信頼と技術」で グローバルに躍進

- 技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる。
- 人材・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する。

TAIHO



大豊工業レポート2016

Taiho Kogyo Report

お問い合わせ先

大豊工業株式会社

CSR推進室

TEL:0565-28-2225(代) FAX:0565-28-2227

WEB版

本報告書は当社ウェブサイトからダウンロードできます。

URL:<http://www.taihonet.co.jp>

